伐 採 後 の 造 林 に 係 る 森 林 の 状 況 報 告 書

**伐採の期間の末日から30日以内に提出されているか？**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日

　登米市長　熊谷　盛廣　殿

1. **伐採箇所ごとに報告書を作成する。**
2. **複数地番にまたがる場合は、すべての地番を記入する。**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　報告者　氏名

　　年　月　日に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採後の造林を実施したので、森林法第10条の８第２項の規定により報告します。

**複数の樹種を造林した場合は、樹種ごとに記載**

　１　森林の所在場所

|  |
| --- |
| 市　　　　　　　　町  　 　　 　　　 　　　大字　　　　　　　　字　　　　　　　　地番  　　　　 　 　郡　　　　　　　　村  **届出書の「伐採の計画」に従ったものとなっているか。** |

　２　伐採後の造林の実施状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 造林の  方　法 | 造林の  期　間 | 造　林  樹　種 | 樹種別の  造林面積 | 樹種別の  造林本数 | 作　業  委託先 | 鳥獣害  対　策 |
| 人工造林 |  |  |  | ha | 本 |  |  |
| 天然更新 |  |  | **届出に記載した期間に収まっているか？** | ha | 本 |  |  |

**「樹種別の造林本数欄の記載方法について」による記載又は資料の添付となっているか。**

３　備考

**相続等により届出とは異なる森林所有者が提出する場合、当該相続等に係る情報が記載されているか**

**届出に記載した方法となっているか？**

|  |
| --- |
|  |

注意事項

１　報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。

２　森林の所在場所ごとに記載すること。

３　造林の方法欄には、人工造林による場合には植栽又は人工播種の別を、天然更新による場合にはぼう芽更新又は天然下種更新の別を記載すること。

４　樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

５　面積は、小数第２位まで記載し、第３位を四捨五入すること。

６　人工造林による場合において、複数の樹種を造林したときは、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の造林本数欄には、造林した樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。

７　天然更新による場合においては、造林樹種欄には代表的な樹種を、樹種別の造林面積欄には天然更新に係る区域全体の面積を記載すること。また、更新調査の結果又は造林地の写真その他の更新状況を明らかにする資料を添付する場合には、樹種別の造林本数欄には、「別添のとおり」と記載することができる。

８　鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。

樹種別の造林本数欄の記載方法について

・原則として、都道府県毎の天然更新完了基準に定められた更新調査（標準地調査）の結果を元に造林本数欄に更新本数を記載する。

・ただし、調査せずとも天然更新完了基準を明らかに満たしていると判断できる場合（例えば、小面積の伐採等）には、造林地の写真その他の更新状況のわかる資料を添付することにより、「別添のとおり」と記載することができる。

※更新樹種の稚樹の生存、生長を阻害するササ、低木、シダ類、キイチゴ類、高茎草本等の競合植物の草丈を超える更新樹種の稚樹が多数成立するなど、明らかに更新の判断基準を満たしている場合には、写真や目視によりチェックリストなど更新状況のわかる資料を添付すること。

（資料の例）

・写真の場合：造林地の全体の遠景写真、更新樹種の生育状況（高さや成立本数）がわかる近景写真（代表的な更新樹種がわかる近接写真を含む。ｈa当たり**５**箇所）

・チェックリストの場合：以下のチェック項目を目視により確認。

☑ 更新樹種の稚樹の樹高が周囲の競合植物の草丈を十分に上回っている。

☑ 更新樹種の稚樹の本数が半径　　ｍの円内に　　本以上生育している。

☑ 伐採跡地が全体的に更新されている。